

TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

IntegrityとIntegrationの歴史的変遷—現代における
生と死の再考のために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小宮山, 陽子 メールアドレス: 所属:
URL	https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/1769

博士学位論文内容要旨
Abstract

専攻 Major	応用環境システム学	氏名 Name	小宮山陽子
論文題目 Title	Integrity と Integration の歴史的変遷—現代における生と死の再考のために		

本論文の目的は、integrity と integration という言葉の意味と両者の関係を歴史的に検討し、脳死を人間の死の基準とする論理について批判的に考察することである。この integrity と integration とは、世界で初めて脳死を人間の死の基準とする論理を展開した公的文書、すなわち米国大統領委員会報告書『死を定義する—死の決定に関する医学的、法的、倫理的諸問題』(Defining Death: Medical, Legal and Ethical Issues in the Determination of Death, 1981) で用いられた中核的な言葉に他ならない。本論文では、integrity と integration という言葉の語源に遡り、両者の意味と関係の変遷を時代・場所・学問領域を縦横断しながら検討した。そして、その検討を通して、脳の機能に基づく死の論理について考察した。その概要を以下に示す。

ラテン語の integritas という言葉は、13世紀のキリスト教神学の教義では、「知性的魂」を有する人間の身体の完全な状態を意味していた。また、16世紀の古典的な生理学では、超自然的原理である「魂」によって保たれる身体の健康な状態という意味を付与された。

以上のような integritas から派生したのが、英語の integrity であった。この派生語は、17世紀の論理学の論考では、身体だけではなく、人工物を含む様々な構造物が完全に一つである状態を指して用いられた。また、同論考では、名詞の integration も登場した。この integration は、数学領域では、極小の接線の集合体から曲線を復元する「積分」概念ともなったのである。このような integration は、身体を含む様々な構造物や天体などの自然現象の全体を、分割した部分同士の関係から構成する方法、あるいは、そうした全体を成立させる作用を表す言葉であった。

さらに、19世紀から20世紀前半には、integration は、心理学と精神医学の領域で、心身に関わる概念として用いられた。そして、「神経系のための integrative action」という神経生理学の理論に導入され、神経系の階層構造や脳と関連づけられた。その一方で、同時代の生理学では、integration は、身体諸器官の協働関係によって有機体全体を成立させる作用を表す概念となり、また、integrity は、身体の器官・機能の連関によって保たれる身体全体の安定した状態を意味する概念となった。こうした展開過程で、有機体の器官・機能の連関関係は、超自然的な原理ではなく、生理学的な integration を通して理解されることとなったのである。

以上のように、integrity と integration という言葉が生理学的な身体と結びつけられた20世紀前半は、「身体の (bodily) integrity」という言葉が倫理的な議論で用いられた時代でもあった。そこでは、「身体の integrity」という言葉が、生体移植に関する神学的な議論に導入され、人間が神から与えられた身体を適正に管理している状態を表していた。また、人間の死の決定に関する同時代の議論では、呼吸・循環・神経系という三つの生理機構が互いに integrate されていることが、人間の生命維持のために不可欠だとされた。

以上の変遷を経て、integration は、神経系の機構と結びつけられ、人間の生命維持に不可欠な状態を意味する概念となった。そしてまた、integrity は、生理学的な意味を有しながらも、生体移植に関する議論では、integritas という神学的な概念に繋がる意味を継承していた。ここにおいて、integrity という言葉は、生理学的にも倫理的にも侵害してはならない身体の完全な状態を意味するに至った。このような integrity と integration とを脳の機能に依拠させ、人間の死と結びつけたのが、まさに、『死を定義する』なのであった。

しかしながら、省みれば、integrity と integration は、身体諸部分の自律的な連関性を前提とするため、特定の器官による一極的な統御とはそもそも相いれない概念であった。そうであるにも関わらず、『死を定義する』は、integrity と integration を脳の機能に依拠させたのであった。かくして、脳の基準に基づく死それ自体を問い直すことが必須の課題となったのである。